

2024年 冬号 (通算 475号)



るうてる
箱崎群教会共同体版

一月報 メッセージと証し

発行 日本福音ルーテル箱崎教会
代表者 牧師 和田 憲明 hakozaki.jelc@gmail.com
〒812-0053 福岡市東区箱崎 3-32-3

TEL (092) 641-5440

【箱崎教会・恵泉幼稚園】



【聖ペテロ教会】



【奈多愛育園・るうてる愛育園】(保育園)



教会の クリスマス 2024

12/25 - 1/6



アドベントクランツの
ロウソクに火が灯され
いよいよ教会は
クリスマスを迎えます

ルーテル教会の
クリスマス期間は
12月25日から1月6日
(主の^{しゅ}顕現日)まで

ともに平和の祈りを
つむぎます

ぜひこの機会に
教会でお会いしましょう
「本物」のクリスマスに

牧師 和田憲明

【produce by / jun MATSUMOTO】

★12月21日(土) クリスマス礼拝



in 聖ペテロ教会 10時30分～11時30分

★12月22日(日) クリスマス礼拝 in 箱崎教会

10時30分～12時10分 礼拝後、クリスマス祝会

☆12月24日(火) クリスマス・イブ礼拝



in 箱崎教会 18時30分～19時30分



クリスマス祝会(茶話会)

19時30分～20時30分 in 集会室

*いずれも予約不要・参加無料です

★2025年1月1日(水・元旦) in 箱崎教会

新年・主の命名日聖餐礼拝 11時～12時 礼拝堂

新しい年は教会からはじめませんか 一年のはじまりに 祝福を

礼拝は、いつでも(一度だけでも)、
どなたでも(信徒でなくとも)自由にご参加できます

子どもたちには「祝福」や「こどもへのおはなし」がございます

礼拝の見える隣の部屋を安心してご使用できます
【エアコン・音響完備】

ご不明な点は気軽に牧師までおたずねください



今回は2人の方々より「証し」(神さまからの自分自身への働きかけ)を寄せていただきました 感謝つつ みなさまにおわかちいたします (わ)

九州教区壮年連盟修養会・ 総会に参加して

K・F (担当: 壮年会)

9月23日(月)に博多教会にて第55回壮年連盟修養会・総会が開かれました。

2014年、2015年に、福岡で行ってから早くも9年が過ぎ、その間に、コロナ化を経て今回の福岡開催となりました。

集まることを制限され、細々と行ってきた会ではありますが、全国で唯一、九州だけにある会となっています。

修養会の主題は「宣教」で、主題聖句は「マルコによる福音書1章35節～39節」です。

昨年までY、M教会の牧師であったI牧師(理事長)を講師に迎え、「可動域を広げる」というテーマで、H会のことを交え講演をいただきました。

その中で、私達日本人は、キリスト教会はこうあるべき。牧師はこうあるべき。と、すぐあるべき論を出しがちであり、このような言葉は、私たちの生き方に制限をかける言葉となっており、それは、誰かの可動域や言動を狭めるものになるんだということでした。今、I牧師は、Y、M教会の専従を離れ、H会のチャプレンとして働かれています。知らない方からは、やめたのと言われることもあったとのことですが、イエス様の宣教の技というのは、教会で説教するだけでは決してないということを、今やっているところなんですとのことで、H会の設立から現在と、これからも少しずつその可動域を広げていることを聞きました。

今回の講演の中で、私が印象に残った箇所は、「自立とはどういうことか」とい

うことについてです。自立はインディペンデンスといい、このインというのは、ディペンデンス(依存)、依存しないことを私たちは自立、独立と考えがちのように思うとのことでした。本当にそうなのかとI牧師が思っていたところ、元大阪大学の総長であった鷺田清一(わしだきよかず)さんが、「自立とはインディペンデンスではなく、インターディペンデンス(相互依存)なんだ」ということを、言われていることにハッとさせられたとのことでした。

鷺田さんは、インターディペンデンス、依存し互いに支え合ったり頼り合ったりすることを自立していると言われているのです。

人間は、1人では決して生きられない存在です。だから、普段は社会の仕組みを使って、あまり人に頼らずに生きていられる人も、いざ病気とか事故とか被災などで自分が人の支えなしで生きられなくなった時に、他人との支え合いのネットワークをいつでも使える用意ができていることが、自立の本当の意味で、時と事情に応じて、いつも支える側に回る用意がないといけないとのことでした。

最初は1人の弱いインターディペンデンスというネットワークができ、それを支え合うネットワークが広がっていき、気がついたらそれがとんでも大きな輪になっていることが、とても大切なことなんじゃないか。

これこそが、障がいの有無に関わらず、1人1人が命を輝かすことができる社会を作っていくことになると思いながら、仕事をやっているとのことでした。

私は、人を頼ることについて気が引けるのですが、確かに支え合いの世界が皆に浸透すれば(支えられる状況を受け入れることができれば)、争いごともなくなり、神が思われている平和な世界が実現すると思えました。

また、I牧師は、好きな言葉として、「弱さは武器にならない」という言葉を上げ

られました。

それは、私たちが武器にならない弱さを中心にインターディペンデントなネットワークを立ち上げていくときに、そこは武器を必要としない、平和で1人1人がその人らしく自立した場所となっていくんだと。そのために、私たちの教会もまた、教会はこうあるべきだという言葉で、可動域を狭めてしまわずに、武器にならない弱さを中心に据えた、ルーテル教会らしいインターディペンデントなネットワークを作っていくことができたなら、それこそが、武器の必要のない平和な社会を作り上げていくことになるんだと言われました。

最後に、主題聖句の中で出てきた「宣教」について、イエスの宣教というのは「悔い改め、方向転換」なんだという話をされました。

「悔い改めをギリシャ語でメタノイアと言います。メタノイアを方向転換して、反対から読むとアイノタメになります。

悔い改めるということは、私たち1人1人が愛のために生きていく1人1人になることなんです」と言われ締めくくられました。

今回の講演について、私にとって「自立するとはどういうことか」考える良いきっかけとなりました。

「かみさまにかんしゃ」

H・Y (担当：教会学校)

11月は、勤労感謝の日がありました。以前は、お米の収穫にあわせて村祭りなど大地の恵みに感謝をあらわす行事がのこっていて、子ども達も楽しく参加していました。ところが、今は、お米はスーパーで買うものという時代になってその気持ちも薄れてきているような気がします。ちょっと残念です。収穫の感謝は、子どもにとっても分かりやすい事柄ですから、

感謝の心は大切にしたいと思っています。

かみさまにかんしゃしましょう という
こどもさんびかがあります。

♪かみさまにかんしゃしましょう
ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ
かみさまはよいものをくださった
ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ ♪

かみさまが、私たちが愛して下さって恵みをたくさんくださる。よいものをたくさんくださる。という歌です。日々いただく食べ物もそのひとつ。子ども達はこのさんびかを素直に受け止め、大きな声でさんびいたします。教会学校では、このような子どもの「感謝の心」を大切に育てたいと思っています。

12月になると、いよいよ皆の大好きなクリスマスがやって来ます。どうしてこんなに嬉しいのでしょうか。それは、かみさまが一番よいものをくださったから。赤ちゃんイエス様をくださったからなのです。皆で心から喜んでお祝いしたいです。世界中のことに、戦禍の中の子ども達にも平和が訪れ、救い主がやってきますように。心から祈ります。

【ヨハネによる福音書3章16節】

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

